

令和4年度 大和南高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○課題、目標別実施結果

課 題	目 標	行 動 計 画
法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚を高め、信用失墜行為を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「神奈川県職員行動指針」を再確認し、全職員で共有した。 ○不祥事に係る具体的な事例を共有し、職員間のコミュニケーション等を通して、相互に意識啓発、注意喚起を行った。 ○スマートフォンやSNS等の不適切な使用の根絶に向け具体的な事例を全職員で共有した。
職場のハラスメントの防止	職員一人ひとりが、パワハラ、マタハラ等について意識を高め、未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故防止会議等において、人権への配慮が不足していると思われる事例などを取り上げ、職員の人権意識を啓発した。 ○ハラスメント全般への理解を深め、職員が互いを尊重するよう、適切なコミュニケーションを行った。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが、わいせつ・セクハラ行為等について当事者意識を持って取り組み、未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「STOP!ザ・セクハラ/わいせつな行為」を活用して、教育実習期間前後に職員及び実習生に注意喚起した。 ○管理職は、授業や部活動の様子、教科準備室の利用状況等を日常的に点検した。
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、生徒に対する体罰や不適切指導、不適切発言を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○人権研修会や事故防止会議等において、体罰防止のガイドラインを確認し、全職員の意識を高めることができた。 ○生徒向け相談窓口等、生徒が校内で相談しやすくなる環境を整えることができた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜業務要項に基づいて、適正な業務を行う。また、厳正かつ確実な成績処理を行うとともに、調査書・推薦書等の発行には万全を期すことで事故を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○入学者選抜業務における作業手順を徹底し、複数チェックの確実な履行により、入力ミスと採点ミスを防止した。 ○成績処理マニュアルを再確認し、最終的な複数点検を全業務で実施した。 ○調査書・推薦書の作成及び取扱いについては、チェックリストを活用した組織的な点検を実施し、事故を防止した。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の取扱いには細心の注意を払い、流出や紛失を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故防止会議と啓発資料を活用し、情報管理に係るルールを全職員が共有し、情報の機密性と完全性と可用性を保持することができた。

交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守や交通マナーの向上を図り、事故を未然に防止する。	○啓発資料や新聞記事等を研修に活用し、職員の遵法意識を向上させ、交通事故を防止することができた。
会計事務等の適正執行	公費及び私費の会計事務をマニュアルに沿って厳正に行い、事故を未然に防止する。	○事故防止会議と職場研修の機会を活用し、私費会計基準を職員が共通認識することができた。 ○計画的な予算執行に向け、担当者は随時、注意喚起を行った。

○令和4年度大和南高等学校不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題（校長意見）

令和4年度も不祥事ゼロプログラムの行動計画の実施状況について2学期に確認を行い、未実施のもの及び目標達成に向けて行動計画を修正する必要があるものについて、補完措置と修整措置を講じた。

令和4年度の不祥事ゼロプログラムの達成状況については、年度末の時点でおおむね目標が達成できたと考える。特に、行動計画の月毎実施状況を振り返ると、行政課の行政課の不祥事防止職員啓発・点検資料の発出とリンクさせた形で職員指導を行った。この取り組みをベースとして、気づいた点を随時取り入れ、全体指導と個別指導、グループ（年代別）指導を行った。

令和5年度の不祥事ゼロプログラム策定に向けて、令和4年度の達成状況を鑑みると、課題と目標及び行動計画を大きく変更する必要はない。神奈川県教育委員会令和5年度不祥事防止取組方針を踏まえ、わいせつ事案の根絶と臨時的任用職員及び経験の浅い教職員の不祥事防止にも重点的に対応していくこととする。